**都議会も「議員さん、出番ですよ！！」かな？**

**このホームページの中には、東京都の教育委員にご意見申し上げた私の手紙から始まり、いつまでたっても変わろうとしない東京都の教育施策に対して、都政新報に論陣を張った一連の記事も入っています。**

**当時の東京都教育委員会の教育施策連絡会って、私の目から見るとひどいもんでした。教育策連絡会では舞台上に上がった教育委員さん方は、それぞれ見識をもっていらして、広い視野から教育論を話してくれるのですが、その教育論と具体的な施策が全く一致していなくて、毎年あきれて帰るばかりだったのです。**

**そんなある年、ある教育委員さんが、「皆さんのご意見を出してください。」というのです。これは見込みがあるのかと思って意見を出しました。しかし、返事は自分の取り組んでいるおやじの会の話ばかり。きちんと踏み込んだ話を届けても、聞く耳は無し。「返事は無くても施策を見直す契機にしていただけたらいいよ。」とあきらめていましたら、施策は前年と変わっていないのに、次の年も同じように「皆さんのご意見を出してください。」と言うじゃありませんか。この無神経さにはあきれました。**

**いくら東京都の教育委員でも失礼ですよね。「わかった。どうせ命までは取られっこない。『表に出ろ！』でやってやれ！」と思って、都政新報の記事にしていただいたのです。**

**担当の方が、2回ぐらいで書きますかというので、「3回は書かせて！」とお願いしたのです。**

**それが⑤「手島からの発信」に載せてある都政新報の記事（3回シリーズ「教育の明日」）でした。実はその記事も本音バージョンとオブラートバージョンとの2通り書いて、東京都の教育委員会にも両方送っているんです。外に出す記事にあまり本当のことばかり書いても、読む人が都政を信用しなくなったらいけないと思ってね。「記事にはオブラートバージョンを出すけれど、本当はこうなんだから、しっかり取り組んで頂戴な。あまりいい加減なことばかりやってると、今度はきついバージョンでいくわよ～。」っていう意味でした。**

**（ここに載せてあるのは、公開されたオブラートバージョンです。）**

**それでも無視しているし、平成27年11月に出された東京都の教育大綱もまだ「知・徳・体」だっていうんだから江戸時代かと思ってびっくりしたんです。とは言っても、こっちも100周年等の準備で忙しいので、わざと忘れていたら、今度は29年1月に出した教育大綱で「持続可能な社会づくりを目指す態度・能力を育成する教育を推進」なんて言葉を入れ始めたんです。でも具体策になると、でたらめ。どう進めるのかが全く示されていなくて、時代錯誤も甚だしかった。そこでまた都政新報さんにお願いして、都政新報Ｈ29,4,7提言『東京の教育大改革』（東京都教育委員会に向けた手島の主張）を書いて（これも⑤の所に出ています）一面から提言を送ったんです。中には「ベーシックドリルで学力は育ったのか」なんて見出しまで、書いちゃったんです。それで、というわけでもないとは思うのですが、ようやくその年になって、東京都も「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」を30校ほど指定して取り組む姿勢を打ち出したんです。**

**それだけで、「東京都はＥＳＤに取り組んでいます」なんて顔をされたんでは、あとの学校の児童・生徒がかわいそうすぎますよ。世界と時代から取り残され旧態依然で、カリキュラム・マネジメントなんて、別世界と思っている「学校」しか、通うところがないんです。学習指導要領にも明確に示された法的拘束力のある内容に対して、どうするつもりでしょうか。特に、教科等横断的な学びを創るための「カリキュラム・マネジメント」を都内の全校でどうやって進めるつもりでしょうか。**

**・・・なんていうように深読みしていくと興味深い記事があります。無理のない範囲でご覧ください。**

**どうしてもだめだったら、これも「都議会の議員さん、出番ですよ！」かな？**

**東京都の教育って、日本中から知らないうちに注目されていて、大きな影響力があるのです。だからこそ、しっかりしてほしいと思っているんです。特に具体的な施策を立てる立場の担当者が、学習指導要領の教育「理念」を理解できていないと、いけないのです。「ちゃんと勉強してください。そして各部署が連絡を取り合って、全体として整合性のある教育施策を示し、学校教育を導いてください。」というエールを込めて、このページを作っています。**